

ちょう 長 　　ふく 福 　　じ 寺 　　うら 裏 　　やま 山 　　こ 古 　　ふん 墳 　　ぐん 群

長福寺裏山古墳群

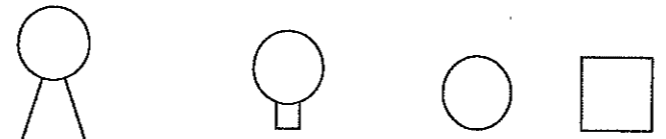
岡山県笠岡市走出・山口地区の境界をなす標高90mほどの丘陵上に所在する市内最大規模の古墳群です。古墳群は、前方後円墳、造出付円墳、円墳、方墳から構成されています。

これまで、1961（昭和36）年に古墳の中心部分の調査、1997（平成9）～2000（平成12）年に古墳群の整備に伴う各古墳の範囲確認調査が行われています。

出土遺物などから5世紀代（古墳時代中期）に七つ塚古墳群→双つ塚古墳→仙人塚古墳→東塚古墳の順に築造されたと考えられています。特に、双つ塚古墳は備中西部で最大の古墳であり、東塚古墳、仙人塚古墳も井笠地方の中でも大きな古墳です。このことから、吉備中枢をやや離れたこの地域で、この時期、急速に台頭した勢力の存在がうかがえるものであり、重要な遺跡です。

古墳は、「前方後円墳」、「円墳」、「方墳」など墳丘の形から様々な種類にわかれています。

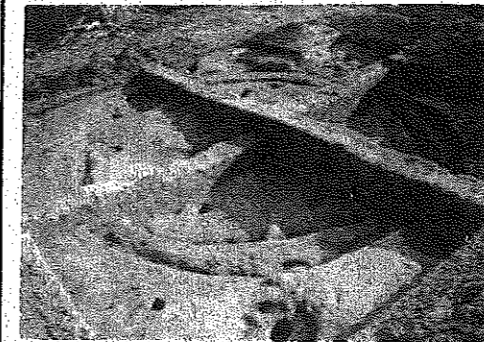
長福寺裏山古墳群の古墳には、「前方後円墳」、「造出付の円墳」、「円墳」、「方墳」と呼ばれる4種類の形があります。



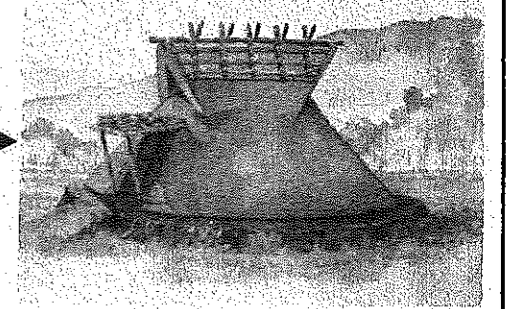
それぞれの古墳の特徴について、みていきましょう。

<弥生時代の遺跡>

東塚古墳の東側と尾根中央の広場付近でたくさんの弥生土器が出土しています。尾根中央の広場からは、弥生時代後期の円形住居跡1棟を検出しました。円形住居は、6本柱で、直径約7mの大きさがあります。土層の観察から、2回の建替があったことがわかりました。



復元すると



<竪穴住居復元図>

<東塚古墳>

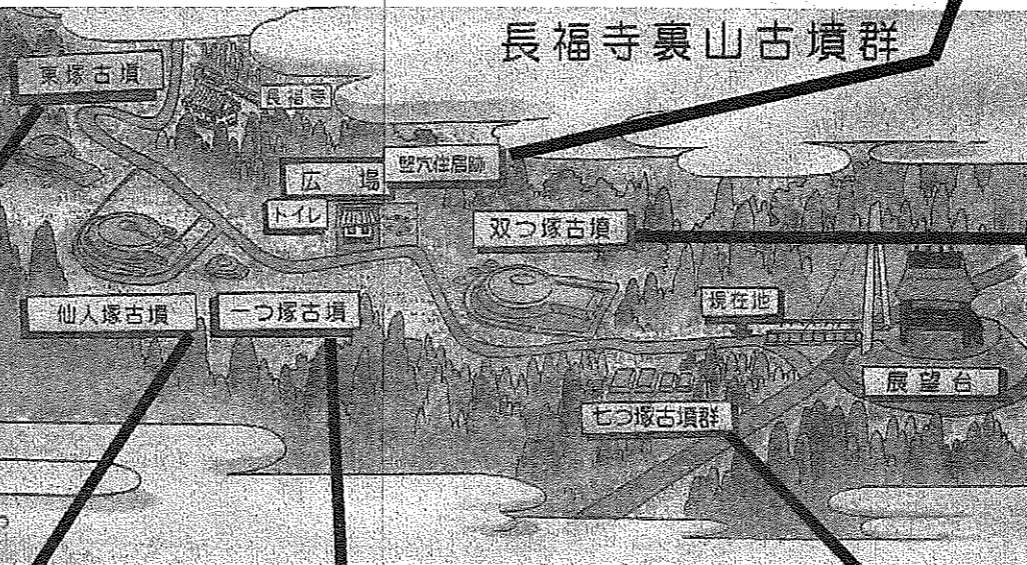
5世紀後半に築造された前方後円墳です。墳長は約50mあり、周濠と周庭に囲まれています。周濠から円筒埴輪が出土しています。前方部では、竪穴式石槨を1基確認でき、小型の五獣鏡、鏃、鎌、斧、馬具、砥石など数多くの副葬品が出土しました。

後世の開墾により墳丘の南半分が崩され真っ二つの状態でしたが、平成12年に残り半分を復元し、現在の姿となっています。



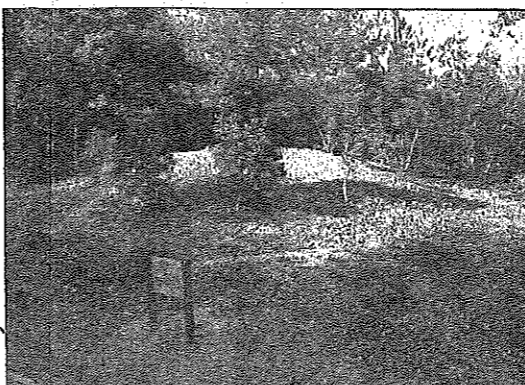
<仙人塚古墳>

5世紀後半に築造された造出付の円墳です。墳長は43mあり、周濠と周庭に囲まれています。円丘部の周囲には葺石が鉢巻状にめぐり、円筒埴輪の埴輪列も確認できました。造出部から須恵器が、方形部付近から蓋形埴輪が出土しています。円丘部では、竪穴式石槨を2基確認でき、内1基を公開しています。石室から出土したと想定される短甲は、現在アメリカのボリカ美術館に所蔵されています。



<一つ塚古墳>

5世紀頃に築造された造出付の円墳です。盗掘をうけ円丘部の中央がへこんでおり、副葬品もみられません。しかし、板状の自然石を立てたものがわずかに残存しており、箱式石槨が置かれていたことを想定することができます。



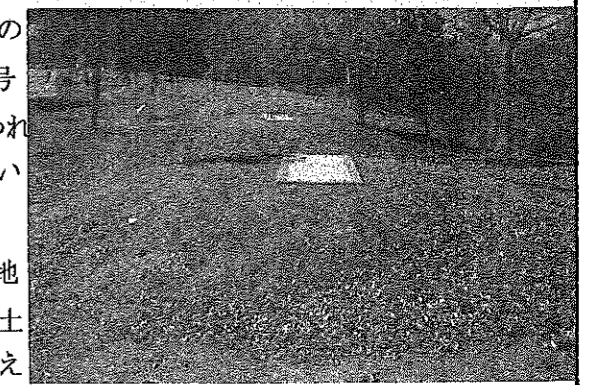
<双つ塚古墳>

5世紀中頃に築造された前方後円墳です。墳長は60mあり、備中西部最大規模の古墳です。墳丘は2段築成で、仙人塚古墳よりも古い時期の埴輪が出土しています。後円部に大きな盗掘穴があり、中から銅鏡が1面出土しています。平成9年の発掘調査により、双つ塚古墳の周庭東側に接するように、円墳3基があることがわかりました。



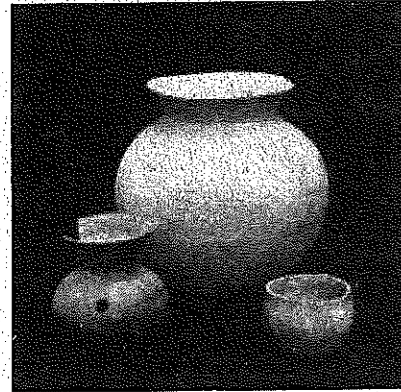
<七つ塚古墳群>

5世紀前半に築造された4基の方墳からなります。3号墳・4号墳は、墳丘盛土がほとんど失われているため、詳細は確認できていません。1号墳と2号墳からは、吉備地域で最古段階の初期須恵器が出土しており、当古墳群の性格を考えるうえで重要な意味をもっています。

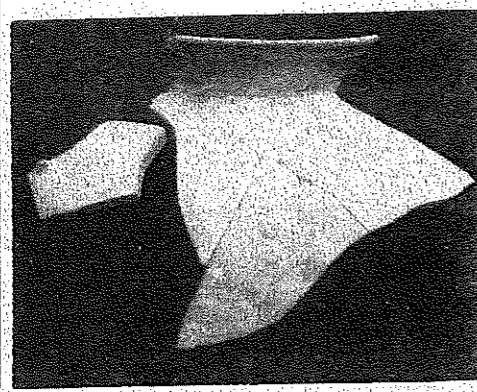


おもな出土品

<七つ塚古墳>

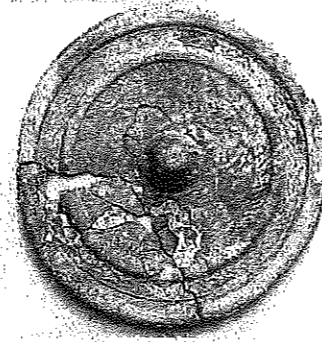


1号墳副室内出土の初期須恵器



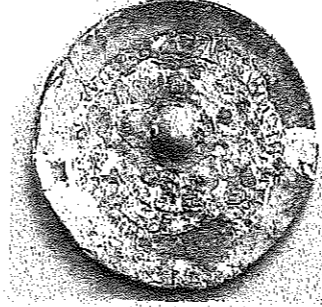
2号墳出土の初期須恵器

<双つ塚古墳>

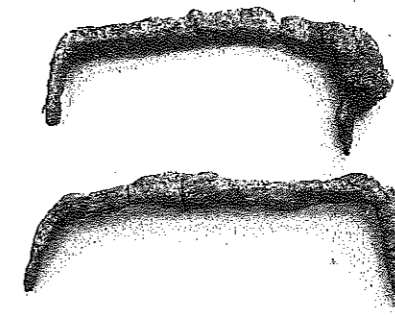


銅鏡

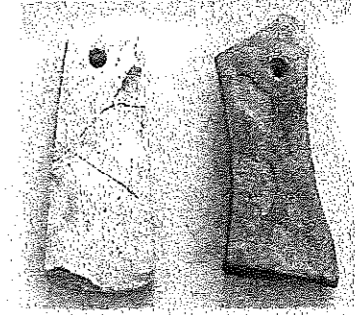
<東塚古墳>



銅鏡



かすがい
鏡

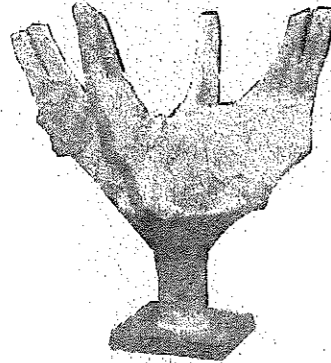


砥石

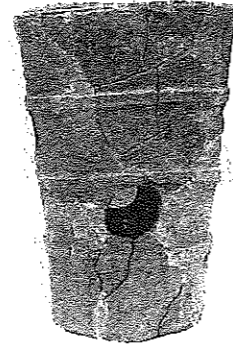
<仙人塚古墳>



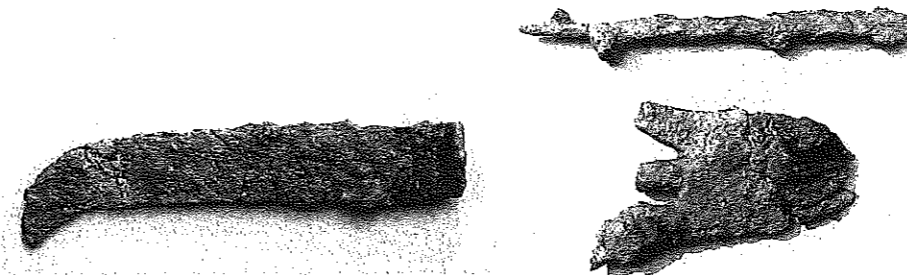
伝 仙人塚出土の短甲



蓋形埴輪の一部

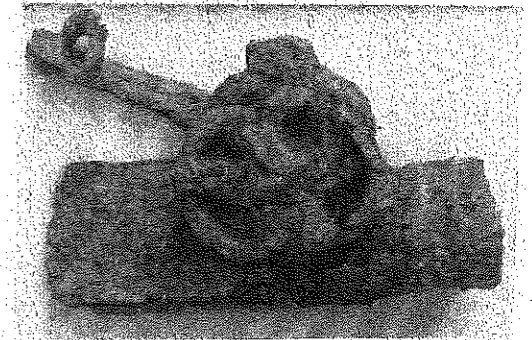


円筒埴輪



鎌

鎌



馬具と斧

長福寺裏山古墳群の概要

名称	古墳形態	墳丘の規格		棺の種類	出土品
		墳長	高さ		
七つ塚古墳群	1号墳	方墳	一辺:約9m	1.4m	はこしきせつかん 箱式石棺 (副室あり) 初期須恵器(壺・はそう)、土師器(碗) 鉄器(刀・剣・鎌・斧・鋤先)、滑石製勾玉、白玉
	2号墳	方墳	一辺:約8m	1.0m	木棺 初期須恵器(壺・甕)
	3号墳	方墳	一辺:約5.5m	0.8m	不明
	4号墳	方墳	一辺:約6.5m	0.5m	木棺 鉄器(鉄刀)
双つ塚古墳	ぜんぼうこうえんぶん 前方後円墳	約60m	こうえんぶ 後円部:5.5m ぜんぼうぶ 前方部:6m	不明	ほにわ けいしょうほにわ えんとうほにわ あさがおがたほにわ 埴輪(形象埴輪・円筒埴輪(朝顔形埴輪を含む))、銅鏡
双つ塚東1号墳	円墳	径:13m	1.7m	不明	ほにわ えんとうほにわ 須恵器、埴輪(円筒埴輪)
双つ塚東2号墳	円墳	不明	不明	不明	不明
双つ塚東3号墳	円墳	不明	不明	不明	不明
一つ塚古墳	つくりだしつせえんぶん 造出付円墳	21m	約2m	はこしきせつかん 箱式石棺	須恵器
仙人塚古墳	つくりだしつせえんぶん 造出付円墳	43m	えんせゆうぶ 円丘部:5.5m つくりだしぶ 造出部:1.5m	たてあなしきせつかん 竪穴式石槨 2基	ほにわ えんとうほにわ あさがおがたほにわ 須恵器(壺・器台・坏)、埴輪(円筒埴輪(朝顔形埴輪含む)) きぬがさがたほにわ 蓋形埴輪) *この他、短甲が出土したと伝えられている
東塚古墳	ぜんぼうこうえんぶん 前方後円墳	約50m	こうえんぶ 後円部:3.5m ぜんぼうぶ 前方部:2.5m	たてあなしきせつかん 竪穴式石槨	ほにわ えんとうほにわ 埴輪(円筒埴輪)、銅鏡(五獣鏡)、瑠璃製勾玉、滑石製白玉、 かすがい 鉄器(鏡、武器:刀・剣・鎌、工具:刀子・斧・鉈、 くわ かこ 農具:鎌・鋤先、馬具:轡・鏡板・鉸具)、砥石

*墳丘の規格は、発掘調査時に判明したものを記しています。

仙人塚古墳の竪穴式石槨

仙人塚古墳では、円丘部において2基の竪穴式石槨を確認しています。現在、2基の竪穴式石槨の内、中央のかなり深い位置に所在するものを整備し、露出展示を行っています。露出展示を行っている竪穴式石槨の規格は、長さ約3m、幅と高さが約80cmです。偏平な石を積み上げて壁を築き、床には小さな丸い石を敷き、天井には厚さ約20cmもある大型の偏平な石を並べています。

竪穴式石槨とは、死者を埋葬した部屋です。死者を埋葬した後に天井に大きな石を並べて封鎖し、原則的に追葬ができない構造が特徴です。

仙人塚古墳は、盗掘を受けて造出側に横口を開けていました。この横口を用いて、竪穴式石槨の構造が見学できるよう整備を行っています。



竪穴式石槨の内部